

8 紹 介

(雑誌等)

埼玉県における急性呼吸器感染症（病原体）サーベイランスの取り組み

岸本剛 大阪由香 江原勇登 富岡恭子 鹿島かおり
尾関由姫恵 本多麻夫

埼玉県はCOVID-19の経験を踏まえ急性呼吸器感染症(ARI)のさまざまな原因病原体の流行状況を継続的に把握して対策に生かすため、ARI 病原体サーベイランス事業を実施した。2023 年 5 月 8 日～2024 年 3 月 31 日に医師が ARI を疑った患者検体について埼玉県衛生研究所においてマルチプレックスリアルタイム PCR 法等による多項目の病原体検査を週単位で行った。全 3,220 例中 2,614 例から病原体が検出された(81.2%)。感染症発生動向調査の患者報告数と週ごとに比較が可能な新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、RS ウイルス感染症について比較を行った結果、ほぼ同様の時期的傾向が認められた。他の ARI 病原体については、ライノウイルスは8～11月、ヒトメタニューモウイルスは7～10月といったように病原体ごとに検出数の多い時期がそれぞれ認められた。同じ時期でも年代によって原因病原体の流行状況や検出頻度は特に20歳以上と20歳未満の間において大きく異なっていたため、年代別に分けて解析する必要があった。ARI 病原体サーベイランスを行ううえで、特定の疾患に偏らない必要最低限の検体数の確保、必要な検査項目数の確保、迅速で的確な情報還元体制の確保が重要と考えられた。

臨床とウイルス：52(5)，288-296（2024）

